

出雲最古の古墳発見か？

塩津山 1 号墳(安来市)発掘調査年：1994（平成 6）年

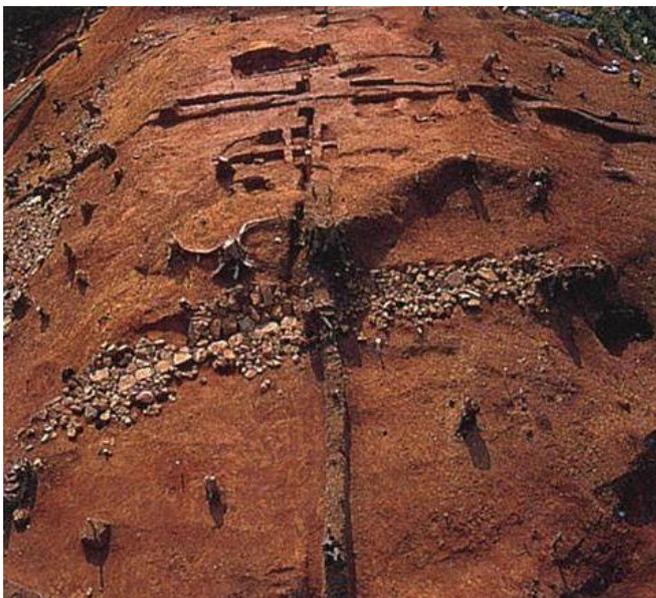
池淵 俊一

平成 6 年春、安来市荒島町の安来道路予定地内で 1 基の古墳の調査が開始されました。その名は塩津山 1 号墳。当初は小規模な円墳だと考えられていましたが、林を伐採すると、約 20m の方形のマウンドが姿をあらわしました。

試しに墳丘斜面にトレンチを入れたところ、さっそく^{ふまishi}葺石がみつかりました。しかし、これが通常の古墳の葺石とは違い、弥生時代の四隅突出墓の貼石によく似ていたのです。

調査員は色めき立ちました。実は、この古墳は、出雲の王墓である荒島墳墓群の真ん中に位置していて、すぐ近くには弥生時代の大型四隅突出墓も存在します。これは四隅突出墓ではないだろうか？

続いて、墳頂部にトレンチを入れます。すると竪穴式石室の蓋石を検出。竪穴式石室は四隅突出墓にはないことから、この時点で四隅突出墓ではなく前期古墳であることが判明します。出雲ではそれまで竪穴式石室は 6 例しか知られておらず、緊張が高まります。さらに石室付近から



発見当時の塩津山 1 号墳



塩津山 1 号墳の貼石

吉備の特殊器台によく似た円筒土器が出土。特殊器台形の埴輪は最古期の古墳から出土することから、この古墳は出雲最古となる可能性が高まったのです。

出雲最古の古墳の発見は、もちろん出雲の古墳時代を考える上でも重要ですが、それ以上の重要な意義をはらんでいました。荒島墳墓群は、弥生時代の王墓から古墳時代前期の大型方墳が累々と営まれた地域ですが、肝心の古墳時代初頭の古墳はみつかっておらず、まさにミッシングリングだったのです。そもそも全国的にみても、弥生時代の墳丘墓から前期古墳へ継続して王墓が築造されている事例はここだけといってもいいでしょう。そういった意味で、塩津山 1 号墳の存在は、出雲だけでなく列島における弥生から古墳への移行期を考える上で、第一級の資料であったのです。

現場周辺はにわかに騒がしくなりました。著名な研究者が相次いで訪れ、その重要性和保存の必要性を訴えます。地元住民からも、何とか古墳を残せないかと、保存への取り組みが始まりました。こうした経緯のなか、建設省（当時）をはじめ関係者の尽力により、トンネル工法に変更することによって現地保存するという英断がなされ、平成 11 年には国史跡に指定される運びとなったのです。

その後、当古墳の研究が進むにつれて、出土した土器から、当初考えていた古墳出現期ではなく、少し時期が降るのではとの指摘が行われています。しかし、一部の土器や貼石や墳形、埋葬配置に弥生時代以来の古い様相をとどめていることもまた事実で、その位置づけをめぐる現在でも論争が続いています。

いずれにせよ、この古墳が出雲の弥生から古墳への移行を考える上で鍵を握るものであることには変わりはありません。古墳の年代を明らかにするためにはさらなる調査が必要ですが、発見後に埋め戻してしまった竪穴式石室の内部をぜひとも調査したいと思っているのは私だけでしょうか？（埋蔵文化財調査センター調整監）



特殊円筒土器